

冬が来る前に、地すべり防止区域を最終点検！

当課では、枝幸町歌登にある「地すべり防止区域」を定期的に現地調査しています。（当該HPでは、春に行った現地調査の様子を6月10日に掲載しています。）今回は、冬を前にして行った今年最後の現地調査の様子をお伝えします。
* 周囲の山々の頂きには、雪が少し積もっていました。



① 牧草地の端にある斜面の様子です。今年夏の大雨で写真左上部の箇所が一部崩れていました。



② 現在のところ、斜面が落ち着いているため、斜面にあがって状況を細かく確認し、対応策を考えます。



③ 来年まで、「クロスロードマーキング法」により、地すべりの変化を経過観察します。斜面にTの字を描くように、簡易見通し杭を複数本打ち込みます。



④ 「クロスロードマーキング法」とは、写真のように簡易見通し杭を直線的に配置しておき、一定期間経過した後に、そのズレを観察することにより、地盤の動きが容易に把握できるという方法です。



⑤ 地すべりを引き起こす原因は、大量の地下水です。地すべりを防止するためには、地下水やその源となる地表水を速やかに排除する必要があります。排水施設が無事に機能しているか、確認を行いました。



⑥ 落ち葉や枯れ枝が堆積して暗きよ排水管の出口を塞いでしまうと、水の流れが悪くなります。この暗きよ排水管はコンクリート製排水路の上に出ていて、きちんと機能していました。